

からだのとしょかん通信

—薬の話特集—

2009年11月号

がんの薬

を知り、うまく付き合う



抗がん剤と
分子標的薬

抗がん剤の副作用とうまく付き合いながら治療を続けていくには、どうすればよいのか？ 雑誌『がんサポート』7巻12号の解説からご紹介します。

*抗がん剤治療 上手に乗り切るコツ 7つのセオリーがあります！

- 1 初期治療はがんばって乗り切ろう
- 2 抗がん剤治療中に仕事をやめなくてもよい
- 3 ライフスタイルに合わせた治療スケジュールを
- 4 副作用が辛い場合はがまんしすぎない
- 5 つらいときは医師と相談し、治療を休むことも
- 6 楽しいことは積極的にどんどんやろう
- 7 ときには人を頼りにしよう

・・・詳しくは18ページに解説がありますのでご覧下さい・・・

*抗がん剤と分子標的薬

がんの薬に、抗がん剤と分子標的薬というものがあります。どんなものでしょうか。がんの性質や患者さんにあった薬、より効果的な使い方を求めて新たな時代に入ろうとしています。

- 1 **抗がん剤**は、核のDNAレベルで細胞の分裂・増殖過程を阻害することで、増殖の早いがんを殺します。とくにがん細胞に的を絞って攻撃するわけではないので、他の正常細胞も無傷ではすまない場合があります。
- 2 **分子標的薬**は、最初から分子レベルでがん細胞に的を絞って攻撃する薬として開発されました。がん細胞の増殖や浸潤、転移に関する分子を標的に、その働きを阻害することによって、がんの増殖や進展を抑えるのが特徴です。そのため、がん細胞だけを確実に狙い撃ちし、かつ正常細胞への影響が少ないと期待されましたが、多彩な副作用があることも分かってきました・・・

・・・詳しくは20ページから解説がありますのでご覧下さい・・・



日本看護協会本部でパネル展示されました!



● JNA フラザ特別展示(東京都渋谷区神宮前) 2009 年度 医療安全推進週間企画展

11月22日～28日は、厚生労働省が定めた「医療安全推進週間」です。

日本看護協会では、一般市民の方々に向けた医療安全推進週間の普及、並びに協会の医療・看護安全活動の紹介を目的とした活動をしています。今年も2008年5月から全国的に展開している「医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”」のテーマのひとつである「患者・市民の医療参加」を取り上げ、一般市民の方々が医療安全のためにできることは何かを考える機会とし、医療安全への患者参加について理解を深めて頂ける展示活動を行っています。そこで当院の「からだのとしよかん」が紹介されました。(他に千葉、富山、東京、沖縄、神奈川の各県から1つずつ紹介されています。)

【展示期間】11月2日～11月30日 10:30～17:00(平日)

【展示物】〈パネル展示〉①医療安全全国共同行動概要

②医療安全全国共同行動参加病院マップ

③患者図書館を設置している全国の病院から6病院を紹介

〈その他の展示〉患者の視点で書かれた「医療ミスを防ぐ20ヶ条」を展示

【ビデオ上映】患者用転倒防止DVDなどを常時上映しています。